

---

## 8 現況及び課題のまとめ

これまでの現況及び課題の整理を総括し、浜見平地区のまちづくりにおける主要な課題を以下のとおり整理します。

### (1) 成熟社会に向けた、住環境の「質」の向上を目指すまちづくりの推進

- ・茅ヶ崎市において、将来人口は平成32年度より減少に転じる予測となっており、浜見平地区のまちづくりにおいても、成熟型社会に向けた住環境の「質」の向上を求めていく必要があります。
- ・住環境の質の向上に向けては、団地建替えに伴う、住戸規模・性能の向上に加え、まちなかの貴重な緑となっている団地内の既存樹林などを活かしながら、緑豊かで良好な景観のまちづくりを展開していく必要があります。

### (2) 様々な世代が暮らす、持続可能なコミュニティの形成

- ・市の将来人口のうち、高齢者については平成32年以降も増加する予測であり、また、浜見平地区は市内でも最も高齢化の進んだ地区となっています。
- ・高齢者福祉の充実やバリアフリーの徹底など、高齢化社会に対応したまちづくりを積極的に展開していく必要があります。
- ・様々な世代が暮らす健全な持続可能なコミュニティへと転換を図っていくことも大きな課題であり、多様な世代層の入居を促す観点から、子育て支援の充実など、ファミリー世代等に対して新たな魅力を訴えていくまちづくりを展開していく必要があります。

### (3) 周辺の住環境と調和し、生活基盤の向上に資するまちづくりの推進

- ・地区の周辺には、古くからの閑静な戸建て住宅地が広がっており、地区の開発に際しては、既存の住環境に配慮した、建築計画や緑化計画等を進めていく必要があります。
- ・鉄砲道と左富士通りは、市南西部の骨格的な道路として機能しており、シンボル軸としての景観形成に留意するほか、歩行者空間の充実に対応していく必要があります。
- ・市南西部の公園分布をみると、市街地内には小規模な街区公園しかなく、地区内の新規公園においては、(仮称)柳島スポーツ公園との役割分担のもと、近隣住民が気軽に利用できる拠点的な公園として、遊びやスポーツ、憩い・交流の場としての機能を充実していく必要があります。
- ・既存のサクラ並木と松尾川雨水幹線は、緑の骨格に位置づけられており、並木の保全や雨水幹線の暗渠上部空間を活用した緑道等を整備していく必要があります。

### (4) 市南西部の生活拠点となる利便性に富んだまちづくりの推進

- ・生活拠点ゾーンは、市南西部のほぼ中央に位置しており、市南西部の利便性を向上し、歩いて暮らせるまちづくりを実現する上で恵まれた立地にあります。

- 
- ・地区及び周辺には、保育園や地域包括支援センターなどの公共施設が立地していますが、施設間連携やボランティアの活用などの面で未整備の施設も生じており、市の福祉行政等との連携のもと、生活拠点ゾーンへの新たな公共施設の集積を図り、子育て支援や高齢者福祉の充実に向けていく必要があります。
  - ・地区中央部のショッピングセンターが近隣住民の中心的な買い物場となっていますが、市南西部の商業集積は少なく、また、施設の老朽化やファミリー世代向け店舗の不足などがあり、既存の商業集積を維持しつつ、新たな消費者ニーズに積極的に対応する商業施設・環境を整備する必要があります。

### **(5) 安全性の高い防災まちづくりの推進**

- ・浜見平地区は市南西部の防災拠点に位置付けられており、新たに計画されている（仮称）柳島スポーツ公園との役割分担のもと、大規模震災時に想定される避難者の収容等に対応する防災機能を確保していく必要があります。
- ・鉄砲道と左富士通りは、緊急輸送路に指定されており、また、防災機能を持った公園への避難路となるため、電線類地中化やゆとりある歩行者空間の整備など、安全性の向上に努めていく必要があります。

### **(6) 様々な世代が協働し、支えあうまちづくりの展開**

- ・浜見平地区のまちづくりにおいては、子育て支援や高齢者福祉・障害者福祉の充実への対応が重要な課題となっており、生活拠点ゾーンへの新たな公共公益施設の導入などにおいて、施設整備を契機とする新たな福祉サービス等の展開を検討していく必要があります。
- ・人口が減少し、財政状況が悪化するなか、少子高齢化の進んだ地域コミュニティを再構築していくうえで、地域住民等がお互いを支えあう新たな公共サービスのあり方が模索されており、浜見平地区のまちづくりの方向としても、公共公益施設の新設等とあわせ、様々な世代・主体が協働し、支えあう仕組みづくりについて検討していく必要があります。